

「主は人の一步一步を定め…」

(詩篇 37 の 23～24)

主は人の一步一步を定め、御旨にかなう道を備えてくださる。
人は倒れても、打ち捨てられるのではない。主がその手をとらえていてくださる。

Our steps are made firm by the LORD, when he delights in our way;
though he stumble, he will not fall, for the LORD upholds him with his hand.

私たちの日々の歩みは、自分が思いつき、考え、そして決断し、実行していくと、たいていの人が思っているだろう。

しかし、この聖書の言葉では、自分で考えて道を選びとって歩んでいるように見えても、その背後で神が私たちのその一步一步を、最善のことになるようにと堅くして下さっているというのである。

私たちが真実に反するようなことをしていたら、それをもすべて見抜いておられる神は、そのような間違った歩みを正すために、私たちを何らかの苦しみに合わせたり警告となるようなことを示される。そうすることによって人が正しい道の新たな一步へと修正するようになされる。

私たちが幼な子のような心をもって信頼するときには、いっそう主は喜んで下さり、私たちの手をしっかりと取って下さるであろう。

人生の歩みのなかで、誰も手を取って導いてくれない、孤独で捨てられたのではないかと思われるほどに神の愛などが感じられなくなることがある。すでに旧約聖書のヨブ記においてもそのようなことがあるのは、痛切な経験として書かれている。「なぜ、私は生まれ出てきたのか、生まれない方がよかったのだ！」とあって激しくうめいた。(旧約聖書・ヨブ記 3 章)

主イエスも十字架の激しい苦しみのときに、「主よ、主よどうして私を捨てられたのか！」という叫びをあげられたことも、こうした人間の深い実感を示すものとなっている。

しかし、そのようなときでも、確かにこの詩にあるように、ヨブにしても主イエスの場合も、神はその道を堅くし、しっかりととらえて下さっていたのであった。ヨブは長い苦しみの末に自分をとらえてくださっている神の御手をはっきりと示されたし、主イエスも復活して神のもとに帰られたのであった。

私たちにおいても、その御手が見えないと思われるときでも、このみ言葉を堅く信じて歩むときに、時至れば、私たちの魂を導き、とらえて下さっている愛の御手をはっきりと知るように導かれるのである。

イワギキョウ (キキョウ科)

北海道 大雪山(黒岳頂上)2009.7.21



この写真だけを見ると、どこかの家の花壇のように見えるかもしれませんが、これは厳しい寒さや風雪にさらされる北海道の高山の山頂部に見られた小さな天然の花畑なのです。

この花は、まだ雪の残る頂上の砂礫地(下の写真の頂上標識のすぐ右側 10 数 m ほどの所)に、10 センチほどの低い花茎を出して他の植物とともに咲いていたのです。雨が少し降ったので、このように水を受けています。キキョウ科の花は美しい青色や青紫をしているのが多いのですが、このも、コバルトブルーの青色が美しい花です。

これは、北海道や本州の中部以北の高山に見られるものです。日本以外にも北アメリカ、北太平洋のアリューシャン列島など寒地の岩の割れ目や砂礫地に見られると記されています。

この写真のものは、大雪山系・黒岳頂上(標高 1984m)に咲いていたのですが、何のさえぎるものもない頂上で、風雪が激しく、かつ土地も小石状でありどこから見ても、植物の生育には十

分でないと思われるようなところに美しく咲いていました。

植物の生育というと、暖かく、日がよくあたり、肥料もあり、土も柔らかかなところがよいと思われませんが、この植物のように、緯度の高い地方である上、さらに高山の厳しい寒さと風の吹く岩の間や砂礫を好んで咲くものもあり、創造の不思議を思います。

人間においても、よい家庭で健康で能力も恵まれていれば、それはとくに感謝すべきことで、神はそうした人ももちろん用いられますが、貧しく、暗い家庭、混乱した状況のただ中にあっても、神は恵みを注ぎ、その歩みを祝福されて、神に用いられる人となっていった例も無数にあります。

主イエスは、「ああ、幸いだ、心の貧しきもの、悲しむものは！」と言われました。貧しさや悲しみ深いところにこそ、かえって神の祝福の花が咲くのだというのです。

(文、二つの写真とも T.YOSHIMURA)